

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2017-228384

(P2017-228384A)

(43) 公開日 平成29年12月28日(2017.12.28)

(51) Int.Cl.
H01R 13/73 (2006.01)F I
H01R 13/73 A

テーマコード (参考)

審査請求 未請求 請求項の数 5 O L (全 12 頁)

(21) 出願番号 特願2016-122427 (P2016-122427)
(22) 出願日 平成28年6月21日 (2016.6.21)(71) 出願人 000183406
住友電装株式会社
三重県四日市市西末広町1番14号
(74) 代理人 110001966
特許業務法人笠井中根国際特許事務所
(74) 代理人 100147717
弁理士 中根 美枝
(74) 代理人 100103252
弁理士 笠井 美孝
(72) 発明者 賈 欣
三重県四日市市西末広町1番14号 住友
電装株式会社内

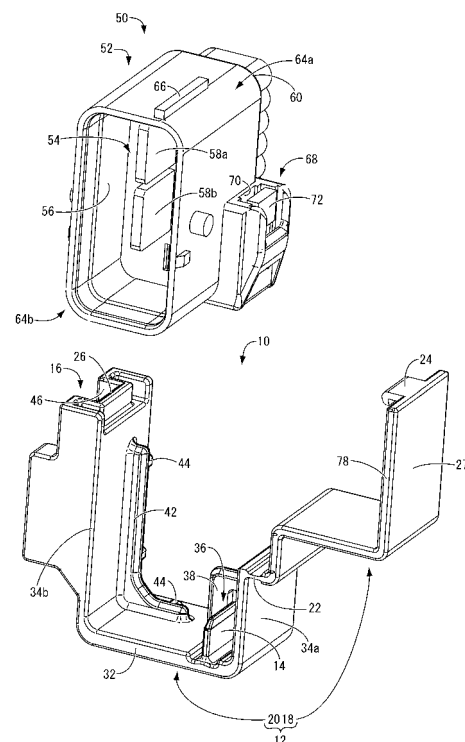
(54) 【発明の名称】 コネクタホルダ

(57) 【要約】

【課題】コネクタ自体に変更を施すことなく、かかるコネクタを形状の異なる取付ブラケットへ装着可能とする、新規な構造のコネクタホルダを提供すること。

【解決手段】コネクタハウジング52の外周面に密接状態で装着される枠体状のホルダ本体12と、ホルダ本体12の内面に突設されて、ブラケット装着部68に嵌合固定される嵌合部14と、ホルダ本体12の外面に突設されてブラケット装着部68とは構成が異なる代替ブラケット装着部16と、を備えているようにした。

【選択図】 図4



【特許請求の範囲】**【請求項 1】**

コネクタハウジングにブラケット装着部が設けられたコネクタに対して装着されるコネクタホルダであって、

前記コネクタハウジングの外周面に密接状態で装着される枠体状のホルダ本体と、

前記ホルダ本体の内面に突設されて、前記ブラケット装着部に嵌合固定される嵌合部と

、
前記ホルダ本体の外面に突設されて前記ブラケット装着部とは構成が異なる代替ブラケット装着部と、を備えている

ことを特徴とするコネクタホルダ。

10

【請求項 2】

前記ホルダ本体が、前記コネクタハウジングにおいて相互に対向する第 1 側面と第 2 側面にそれぞれ密接される第 1 部分枠体と第 2 部分枠体から構成されており、

前記第 1 部分枠体と前記第 2 部分枠体の各一方の端部同士がヒンジ部を介してヒンジ連結されている一方、

前記第 1 部分枠体と前記第 2 部分枠体の各他方の端部に設けたロック部と被ロック部が圧接状態でロック嵌合されている請求項 1 に記載のコネクタホルダ。

【請求項 3】

前記第 2 部分枠体が、前記コネクタハウジングの前記第 2 側面が密接される底壁と、該底壁の幅方向両側から上方に向かって突出する一対の側壁を備え、正面視で略 U 字形状を有している一方、

20

前記底壁の内面には、前記嵌合部が上方に向かって突設されており、前記嵌合部に近接する側の前記側壁と前記底壁によって前記コネクタに設けられた前記ブラケット装着部を収容する装着部収容領域が画成されており、

前記装着部収容領域には、前記嵌合部よりも上方に突出して、前記底壁と前記側壁の両方に連結されたガイド突起が設けられている請求項 2 に記載のコネクタホルダ。

【請求項 4】

前記ホルダ本体には、前記コネクタハウジングの前記外周面に圧接される圧接リブが設けられている請求項 1 ～ 3 の何れか 1 項に記載のコネクタホルダ。

【請求項 5】

30

前記ホルダ本体には、前記コネクタの電線延出方向の両側において、前記コネクタに当接して前記コネクタの前記電線延出方向での抜け出しを阻止する当接部が設けられている請求項 1 ～ 4 の何れか 1 項に記載のコネクタホルダ。

【発明の詳細な説明】**【技術分野】****【0001】**

本発明は、取付ブラケットにコネクタを固定するために用いられるコネクタホルダに関するものである。

【背景技術】**【0002】**

40

従来から、自動車等の車両に配索されたワイヤハーネスの適所に設けられたコネクタは、例えば、特開平 10-189155 号公報（特許文献 1）に記載されているように、コネクタハウジングに設けられたブラケット装着部を介して、車両の適所に突設された取付ブラケットに装着されて固定されるようになっている。

【0003】

ところで、このようなコネクタに設けられたブラケット装着部は、装着対象である特定形状の取付ブラケットに対応した形状を有していることから、形状が異なる取付ブラケットが設けられた異なる車種においては、ブラケット装着部の装着が困難となる。それゆえ、車両に配設された取付ブラケットに応じたブラケット装着部を備えた専用のコネクタを異なる車種毎に準備する必要があった。

50

【0004】

ところが、専用のコネクタを異なる車種毎に準備するためには、その度に専用の金型をおこす必要であり大幅なコストアップにつながる上に、かかる多種類のコネクタを準備することは部品管理の観点からも煩雑で作業性の悪化を招くおそれがあった。また、顧客から使用するコネクタを指定される場合もあることから、指定されたコネクタ自体は変えずに対策を行うことが求められていた。

【先行技術文献】

【特許文献】

【0005】

【特許文献1】特開平10-189155号公報

10

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0006】

本発明は、上述の事情を背景に為されたものであって、その解決課題は、コネクタ自体に変更を施すことなく、かかるコネクタを形状の異なる取付ブラケットへ装着可能とする、新規な構造のコネクタホルダを提供することにある。

【課題を解決するための手段】

【0007】

本発明の第一の態様は、コネクタハウジングにブラケット装着部が設けられたコネクタに対して装着されるコネクタホルダであって、前記コネクタハウジングの外周面に密接状態で装着される杵体状のホルダ本体と、前記ホルダ本体の内面に突設されて、前記ブラケット装着部に嵌合固定される嵌合部と、前記ホルダ本体の外面に突設されて前記ブラケット装着部とは構成が異なる代替ブラケット装着部と、を備えていることを特徴とする。

20

【0008】

本態様によれば、ホルダ本体が、装着対象となるコネクタにおけるコネクタハウジングの外周面に密接状態で装着される杵体状とされていることから、コネクタの大型化を回避しつつホルダ本体をコネクタに装着することができる。しかも、コネクタとコネクタホルダの固定は、コネクタに設けられた既存のブラケット装着部に嵌合固定される嵌合部をホルダ本体の内面に突設し、既存のブラケット装着部を利用して実現していることから、部品点数の増加を伴うことなくコスト効率よく行うことができる。

30

【0009】

ここで、コネクタホルダの嵌合部とコネクタのブラケット装着部との嵌合固定には、嵌合時の弾性変形を許容する隙間が伴うことが避けられないが、ホルダ本体を密接状態でコネクタハウジングに装着することで、かかる隙間を吸収して、コネクタに装着されたコネクタホルダのがたつきの発生が有利に防止されている。これにより、コネクタとコネクタホルダ間のがたつきやそれに伴う異音の発生や耐久性の低減の問題が有利に解消されている。

【0010】

加えて、ホルダ本体の外面には、ブラケット装着部とは構成が異なる代替ブラケット装着部が突設されていることから、コネクタに設けられたブラケット装着部に対して車両に突設された取付ブラケットの装着が困難な場合にも、ホルダ本体の外面に突設された代替ブラケット装着部の構成を対象の取付ブラケットが装着可能なものとするにより、コネクタを一切変更することなく、当該コネクタを、所望の取付けブラケットに装着することが可能となるのである。それゆえ、コネクタ自体に変更を施す必要がないことから、専用のコネクタを異なる車種毎に準備する場合に比してコストアップを有利に回避できる。また、顧客から指定されたコネクタに設けられたブラケット装着部が、車両に設けられた取付ブラケットに対して取付けが困難な場合でも、かかる車両の取付ブラケットに装着可能な代替ブラケット装着部を備えたコネクタホルダを装着するだけで、指定コネクタの使用が可能となる。

40

【0011】

50

なお、コネクタに設けられたブラケット装着部とは構成が異なる代替ブラケット装着部には、コネクタのブラケット装着部と嵌合構造（ランス構造とクリップ構造等）が異なるものや、嵌合方向が異なるもの、嵌合構造や嵌合方向は同一であっても、ブラケット装着部とはコネクタハウジングに対する配設位置が異なるものが含まれる。

【0012】

本発明の第二の態様は、前記第一の態様に記載のものにおいて、前記ホルダ本体が、前記コネクタハウジングにおいて相互に対向する第1側面と第2側面にそれぞれ密接される第1部分枠体と第2部分枠体から構成されており、前記第1部分枠体と前記第2部分枠体の各一方の端部同士がヒンジ部を介してヒンジ連結されている一方、前記第1部分枠体と前記第2部分枠体の各他方の端部に設けたロック部と被ロック部が圧接状態でロック嵌合されているものである。

10

【0013】

本態様によれば、ホルダ本体を構成する第1部分枠体と第2部分枠体が、一方の端部でヒンジ連結されている一方、他方の端部では、ロック部と被ロック部が圧接状態でロック嵌合されている。それゆえ、ホルダ本体を分割構造としてコネクタへの装着を容易にしつつ、圧接状態でのロック嵌合とすることで、コネクタとコネクタハウジングのがたつきを有利に防止することができる。

【0014】

本発明の第三の態様は、前記第二の態様に記載のものにおいて、前記第2部分枠体が、前記コネクタハウジングの前記第2側面が密接される底壁と、該底壁の幅方向両側から上方に向かって突出する一对の側壁を備え、正面視で略U字形状を有している一方、前記底壁の内面には、前記嵌合部が上方に向かって突設されており、前記嵌合部に近接する側の前記側壁と前記底壁によって前記コネクタに設けられた前記ブラケット装着部を収容する装着部収容領域が画成されており、前記装着部収容領域には、前記嵌合部よりも上方に突出して、前記底壁と前記側壁の両方に連結されたガイド突起が設けられているものである。

20

【0015】

本態様によれば、第2部分枠体が上方が開口部となる略U字形状で形成されており、底壁に嵌合部が上方に向かって突設されている。これにより、コネクタをコネクタホルダの第2部分枠体に装着しつつコネクタホルダの嵌合部をコネクタのブラケット装着部に組み付ける作業を、コネクタを第2部分枠体の上方開口部から差し入れることで行うことができ、良好な組付作業性を実現することができる。

30

【0016】

しかも、第2部分枠体の底壁には、嵌合部よりも上方に突出するガイド突起が突設されていることから、コネクタを第2部分枠体の上方開口部から差し入れる際に、ブラケット装着部と嵌合部の位置合わせを確実に言い、ブラケット装着部への嵌合部の嵌合をスムーズに行うことができる。

【0017】

さらに、ガイド突起は、コネクタに設けられたブラケット装着部を収容する装着部収容領域を画成する第2部分枠体の底壁と側壁の両方に連結されていることから、ホルダ本体を第1部分枠体と第2部分枠体に分割したことによる剛性低減の問題が有利に解消されており、第2部分枠体やホルダ本体全体の剛性や形状安定性をガイド突起を利用しつつ実現することができる。

40

【0018】

本発明の第四の態様は、前記第一乃至第三の何れか1つの態様に記載のものにおいて、前記ホルダ本体には、前記コネクタハウジングの前記外周面に圧接される圧接リブが設けられているものである。

【0019】

本態様によれば、ホルダ本体にコネクタハウジングの外周面に圧接される圧接リブが設けられていることから、コネクタとコネクタホルダを確実に密接状態に維持できて、隙間

50

の存在によるがたつきの発生の問題をより確実に解消することができる。

【0020】

本発明の第五の態様は、前記第一乃至第四の何れか1つの態様に記載のものにおいて、前記ホルダ本体には、前記コネクタの電線延出方向の両側において、前記コネクタに当接して前記コネクタの前記電線延出方向での抜け出しを阻止する当接部が設けられているものである。

【0021】

本態様によれば、ホルダ本体には、コネクタの電線延出方向の両側でコネクタに当接してコネクタの抜け出しを阻止する当接部が設けられていることから、コネクタに電線から引張力が及ぼされた際には、ホルダ本体の当接部がコネクタに当接してコネクタの変位を阻止して抜け出しを防止することができる。それゆえ、コネクタをコネクタホルダに対して安定して保持することができる。

【発明の効果】

【0022】

本発明によれば、ホルダ本体が、装着対象となるコネクタにおけるコネクタハウジングの外周面に密接状態で装着されることから、コネクタの大型化を回避できる。しかも、コネクタとコネクタホルダの固定は、既存のブラケット装着部を利用して実現していることから、部品点数の増加を伴うことなくコスト効率よく行うことができる。ここで、嵌合時の弾性変形を許容する隙間が伴うことが避けられないが、ホルダ本体を密接状態でコネクタハウジングに装着することで、かかる隙間を吸収できる。これにより、コネクタとコネクタホルダ間のがたつきやそれに伴う異音の発生や耐久性の低減の問題が有利に解消されている。加えて、ホルダ本体の外面には、ブラケット装着部とは構成が異なる代替ブラケット装着部が突設されていることから、代替ブラケット装着部の構成を対象の取付ブラケットが装着可能なものとするにより、コネクタを一切変更することなく、当該コネクタを、所望の取付けブラケットに装着できる。それゆえ、専用のコネクタを異なる車種毎に準備する場合に比してコストアップを有利に回避できる。また、顧客から指定されたコネクタに設けられたブラケット装着部が車両に設けられた取付ブラケットに対して取付けが困難な場合でも、本発明のコネクタホルダにより指定コネクタの使用が可能となる。

【図面の簡単な説明】

【0023】

【図1】本発明の一実施形態としてのコネクタホルダを示す斜視図。

【図2】図1の正面図。

【図3】図1の平面図。

【図4】本実施形態のコネクタホルダと、コネクタホルダが装着されるコネクタを示す斜視図。

【図5】本実施形態のコネクタホルダの第2部分枠体に対して、コネクタが載置された状態を示す斜視図。

【図6】図5に示すコネクタが載置されたコネクタホルダを別方向から見た斜視図。

【図7】図5に示すコネクタホルダをコネクタに密接状態で装着した斜視図。

【図8】図7に示すコネクタに密接状態で装着されたコネクタホルダを別方向から見た斜視図であって、取付ブラケットを追加記載した図。

【発明を実施するための形態】

【0024】

以下、本発明の実施形態について、図面を参照しつつ説明する。

【0025】

先ず、図1～3には、本発明の一実施形態としてのコネクタホルダ10が、示されている。コネクタホルダ10は、枠体状のホルダ本体12と、ホルダ本体12の内面に突設された嵌合部14と、ホルダ本体12の外面に突設された代替ブラケット装着部16と、を備えて構成されている。なお、以下の説明において、上方とは、図2中の上方、下方とは、図2中の下方を言い、また前方とは、図3中の下方、後方とは、図3中の上方を言い、

さらに長さ方向とは、図 3 中の上下方向、幅方向とは、図 3 中の左右方向を言うものとする。

【0026】

ホルダ本体 12 は、図 1～3 に示されているように、全体として略矩形枠体形状を呈しており、例えばポリプロピレン（PP）、ポリアミド（PA）等の絶縁性の合成樹脂により射出成形等によって一体形成されている。ホルダ本体 12 は、長さ方向（図 2 中、紙面に垂直な方向）に向かって略クランク断面形状で延出する第 1 部分枠体 18 と、長さ方向に向かって略 U 字断面形状で延出する第 2 部分枠体 20 から構成されている。かかる第 1 部分枠体 18 と第 2 部分枠体 20 は、幅方向（図 3 中、左右方向）の一方の端部同士が、略薄肉平板状のヒンジ部 22 を介してヒンジ連結されている一方、幅方向の他方の端部同士が、第 1 部分枠体 18 に設けられたロック部 24 と第 2 部分枠体 20 に設けられた被ロック部 26 によって、ロック嵌合されるようになっている。ここで、ロック部 24 は、図 1～2 に示されているように、第 1 部分枠体 18 の他方の端部の長さ方向中央部において内方に向かって突設されたロック爪によって構成されている一方、被ロック部 26 は、後述する図 6 に示されているように、第 2 部分枠体 20 の他方の端部の長さ方向中央部において外方に向かって突設されたロック突部によって構成されている。

10

【0027】

より詳細には、第 1 部分枠体 18 は、一端部にロック部 24 が突設された略平板状の天壁 27 を備えており、天壁 27 の内面には、後述する図 6 に示されているように、天壁 27 の内面の長さ方向中央部において周方向の略全長に亘って延びる略平板状の第 1 圧接リブ 28 と、かかる第 1 圧接リブ 28 の周方向中央部から後方（図 6 中、手前側）に向かって第 1 圧接リブ 28 と同じ突出高さで延び出し後端部に到る一対の補強リブ 30、30 から構成されている。

20

【0028】

一方、第 2 部分枠体 20 は、長さ方向に延出する平面視で略矩形平板状の底壁 32 と、かかる底壁 32 の幅方向（図 2 中、左右方向）両側から上方に向かって突出する側面視で略矩形形状の一対の側壁 34a、34b を備え、正面視で略 U 字形状を有している。より詳細には、第 1 部分枠体 18 と接続する一方の側壁 34a の突出高さ寸法は、他方の側壁 34b の突出高さ寸法の略半分とされている。また、底壁 32 の内面における一方の側壁 34a 側には、長さ方向の中央部から前端部に到るまで延び出す側面視で略矩形平板状の嵌合部 14 が上方に向かって突設されており、かかる嵌合部 14 に近接する側の一方の側壁 34a と底壁 32 によって装着部収容領域 36 が画成されている。さらに、装着部収容領域 36 には、嵌合部 14 の後方側に僅かに離隔した位置において、底壁 32 の内面から上方に向かって突出しかつ一方の側壁 34a の内面に向かって延出されて連結された正面視で略逆 L 字平板状（図 2 参照）のガイド突起 38 が形成されている。かかるガイド突起 38 は、図 2 に示されているように、嵌合部 14 よりも上方に突出して形成されている。また、ガイド突起 38 と、底壁 32 および一方の側壁 34a を連結する部位の後方側において、ガイド突起 38 を補強する略三角断面形状の補強リブ 40 が設けられている（図 3 および図 6 参照）。

30

【0029】

加えて、第 2 部分枠体 20 の他方の側壁 34b と底壁 32 の内面には、図 1～3 に示されているように、周方向の略全長に亘って延び出すと共に内方に向かって突出する正面視で略 L 字平板状の第 2 圧接リブ 42 が設けられている。かかる第 2 圧接リブ 42 には、周方向に離隔する 3 箇所において後方に向かって延び出す補強リブ 44 が設けられている。また、他方の側壁 34b の外面には、周方向の略全長に亘って略門形状で延び出す代替ブラケット装着部 16 が形成されていると共に、他方の側壁 34b の突出端部の外面には、被ロック部 26 が外方に向かって突設されている。より詳細には、代替ブラケット装着部 16 内には、後述する取付ブラケット 74 が挿通されて嵌合される取付ブラケット装着部 46 が上下方向に貫通して形成されており、かかる取付ブラケット装着部 46 内には、先端部に嵌合突部 48 を有するロック片が設けられている（図 6 参照）。なお、代替ブラケ

40

50

ット装着部 16 は、後述するコネクタハウジング 52 に設けられたブラケット装着部 68 とは、異なる構成を有している。

【0030】

このような構成とされたコネクタホルダ 10 が、図 4～8 に示されているように、コネクタ 50 に対して装着されるようになっていて、より詳細には、コネクタ 50 は、図示しない複数の電線の端末に設けられており、コネクタ 50 の前方側（図 4 中、手前側）より図示しない相手側コネクタが連結されるようになっていて、より詳細には、図 4 に示されているように、コネクタ 50 を構成するコネクタハウジング 52 は略ブロック形状とされており、例えばポリプロピレン（PP）、ポリアミド（PA）等の合成樹脂により射出成形等によって一体形成されている。かかるコネクタハウジング 52 には、例えば金属製の端子金具 54 がモールドされており、かかる端子金具 54 の一端部が、コネクタハウジング 52 の前方に向かって開口する正面視で略矩形状の相手側コネクタ装着部 56 内において前方に向かって突出されて、一対のタブ端子 58a、58b を構成している。かかる一対のタブ端子 58a、58b は、例えば一方のタブ端子 58a が電源用端子とされている一方、他方のタブ端子 58b がアース用端子とされている。一方、端子金具 54 の他端部は、図 6 に示されているように、コネクタハウジング 52 の後面 60 から後方に向かって突設された筒状部において後方に開口する背面視で略円形状の圧着端子装着部 62a、62b 内に収容配置されるようになっていて、そして、図示しない複数の電線の端末に圧着された圧着端子が圧着端子装着部 62a、62b 内に装着されることにより、各圧着端子に対して電源電圧もしくはアース電位が供給されるようになっていて、このため、例えば、最も下方に突設された圧着端子装着部 62b 内にはアース用端子が接続されてアース電位が供給されるようになっていて、残りの 12 個の圧着端子装着部 62a 内には電源用端子が接続されて電源電圧が供給されるようになっていて、

【0031】

加えて、コネクタハウジング 52 は、相互に対向する第 1 側面 64a と第 2 側面 64b を備えている。ここで、第 1 側面 64a は、正面視で右側に位置し逆 L 字状に延びる側面とされている一方、第 2 側面 64b は、正面視で左側に位置し L 字状に延びる側面とされている。また、コネクタハウジング 52 の上面には、正面視で右端側において、前端側から後方側に向かって略矩形断面形状で延び出す被当接部 66 が設けられている。さらに、コネクタハウジング 52 の第 1 側面 64a の下端部側には、上下方向に向かって略門形状で延びるブラケット装着部 68 が外方に向かって突設されている。かかるブラケット装着部 68 内には、コネクタホルダ 10 の嵌合部 14 が挿通配置される挿通孔 70 が上下方向に貫通して形成されている。そして、かかる挿通孔 70 内には、先端部に嵌合突起 72 を有するロック片が設けられている。

【0032】

次に、図 4～8 を用いて、このような構成とされたコネクタハウジング 52 に対して、本実施形態のコネクタホルダ 10 を装着するやり方について説明する。まず、図 4～6 に示されているように、コネクタハウジング 52 を、上方側からコネクタホルダ 10 の第 2 部分枠体 20 内に載置する。この際、コネクタハウジング 52 のブラケット装着部 68 の後方側の側面を、第 2 部分枠体 20 のガイド突起 38 の前面に当接させた状態で下方に押し込むことにより、ブラケット装着部 68 の挿通孔 70 内に嵌合部 14 がガイドされて、嵌合部 14 の突出端部がロック片の嵌合突起 72 に嵌合されるようになっていて、かかる状態で、第 2 部分枠体 20 の第 2 圧接リブ 42 の突出端部が、コネクタハウジング 52 の最も下方に突設された圧着端子装着部 62b の外周面に圧接されるようになっていて（図 6 参照）一方、第 2 部分枠体 20 の装着部収容領域 36 にブラケット装着部 68 が収容されるようになっていて（図 5 参照）。

【0033】

次に、第 1 部分枠体 18 のロック部 24 に設けられたロック爪を、第 2 部分枠体 20 の被ロック部 26 に設けられたロック突部に対して圧接状態でロック嵌合することにより、図 7～8 に示されているように、コネクタホルダ 10 の第 1 部分枠体 18 と第 2 部分枠体

20が、コネクタハウジング52において相互に対向する第1側面64aと第2側面64bにそれぞれ密接されて、コネクタハウジング52に対するコネクタホルダ10の装着が完成するのである。そして、かかるコネクタホルダ10が装着されたコネクタ50のコネクタハウジング52の取付ブラケット装着部46内のロック片の嵌合突部48に対して、車両に設けられた取付ブラケット74の嵌合孔76に嵌合されるようになっているのである(図8参照)。

【0034】

このように、コネクタホルダ10のホルダ本体12がコネクタハウジング52の外周面に対して密接状態で装着されることにより、第2部分枠体20の底壁32に対してもコネクタハウジング52の外周面の第2側面64bが密接されるようになっている。また、図6および図8から分かるように、かかる状態において、第1部分枠体18の第1圧接リブ28の突出端部が、コネクタハウジング52の後面60から後方に向かって突設された筒状部の外周面に圧接されるようになっている。要するに、ホルダ本体12の第1部分枠体18と第2部分枠体20にはそれぞれ、対向するコネクタハウジング52の第1側面64aと第2側面64bたる圧着端子装着部62a, 62bを構成する筒状部の外周面に圧接される第1圧接リブ28と第2圧接リブ42が設けられているのである。さらに、図示しない電線が後方側に引っ張られる力が加わった際には、コネクタハウジング52の後面60がホルダ本体12に設けられた第1当接リブ28と第2当接リブ42に当接することにより、コネクタ50の電線延出方向後方側への抜け出しを阻止できるようになっている。一方、図示しない電線が前方側に押される力が加わった際には、コネクタハウジング52の被当接部66の後端部がホルダ本体12の第1部分枠体18の前端部78に当接することにより、コネクタ50の電線延出方向前方側への抜け出しを阻止できるようになっている。すなわち、ホルダ本体12には、コネクタ50の電線延出方向の両側において、コネクタ50の後面60や被当接部66に当接することによりコネクタ50の電線延出方向での抜け出しを阻止する当接部たる第1当接リブ28と第2当接リブ42および第1部分枠体18が設けられているのである。

【0035】

このような構造とされたコネクタホルダ10によれば、コネクタホルダ10のホルダ本体12が、装着対象となるコネクタ50のコネクタハウジング52の外周面に密接状態で装着される枠体形状とされていることから、コネクタ50の大型化を回避しつつホルダ本体12をコネクタ50に装着することができるようになっている。しかも、コネクタ50とコネクタホルダ10の固定は、コネクタ50に設けられた既存のブラケット装着部68に嵌合固定される嵌合部14をホルダ本体12の内面に突設することにより行われており、既存のブラケット装着部68を利用して実現されていることから、部品点数の増加を伴うことなくコスト効率よく行うことができるのである。

【0036】

かかるホルダ本体12の嵌合部14をコネクタハウジング52のブラケット装着部68に対して嵌合固定する際には、嵌合時の弾性変形を許容する隙間が必要となるが、本実施形態では、ホルダ本体12を密接状態でコネクタハウジング52に装着することによりかかる隙間を吸収して、コネクタホルダ10のホルダ本体12がコネクタ50のコネクタハウジング52に装着された際のがたつきの発生を有利に防止している。それゆえ、コネクタホルダ10とコネクタ50間のがたつきやそれに伴う異音の発生や耐久性の低減等の問題が有利に解消されている。また、ホルダ本体12が第1部分枠体18と第2部分枠体20から構成されており、一方の端部同士がヒンジ連結されている一方、他方の端部同士が、ロック部24と被ロック部26によって圧接状態でロック嵌合されている。このように、ホルダ本体12が分割構造とされていることによりコネクタ50への装着が容易とされている一方、ホルダ本体12がコネクタ50に対して圧接状態でロック嵌合されていることによりコネクタホルダ10とコネクタ50間のがたつきを一層有利に防止できるようになっている。しかも、ホルダ本体12には、コネクタハウジング52の圧着端子装着部62a, 62bを構成する筒状部の外周面に圧接される第1圧接リブ28と第2圧接リブ4

2 が設けられていることから、コネクタホルダ 10 のホルダ本体 12 をコネクタ 50 のコネクタハウジング 52 に対して一層確実に密接状態に維持することができ、隙間の存在によるがたつきの発生の問題をより一層確実に解消することができるようになっている。

【0037】

加えて、ホルダ本体 12 の他方の側壁 34b の外面には、コネクタハウジング 52 のブラケット装着部 68 とは構成が異なる代替ブラケット装着部 16 が突設されている。これにより、コネクタハウジング 52 のブラケット装着部 68 が取付ブラケット 74 への装着が困難な場合であっても、ホルダ本体 12 の代替ブラケット装着部 16 の構成を取付ブラケット 74 に装着可能なものとすることによって、コネクタ 50 を一切変更することなく、当該コネクタ 50 を、所望の取付ブラケット 74 に対して装着することが可能となっている。それゆえ、従来の如き専用のコネクタを異なる車種毎に準備する場合に比して、コストアップを有利に回避できる。しかも、顧客から指定されたコネクタ 50 に設けられたブラケット装着部 68 が、所望の取付ブラケット 74 に対して取付けが困難な場合であっても、取付ブラケット 74 に装着可能な代替ブラケット装着部 16 を備えたコネクタホルダ 10 を装着することにより、顧客から指定されたコネクタ 50 の使用が可能となるのである。

【0038】

また、ホルダ本体 12 の第 2 部分枠体 20 が、上方が開口部となる略 U 字形状で形成されている。これにより、コネクタハウジング 52 をホルダ本体 12 の第 2 部分枠体 20 に装着しつつ第 2 部分枠体 20 に設けられた嵌合部 14 にコネクタハウジング 52 のブラケット装着部 68 に組み付ける作業を、第 2 部分枠体 20 の上方開口部からコネクタハウジング 52 を挿し入れることで行うことができることから、良好な組付作業性を実現することができる。しかも、第 2 部分枠体 20 の底壁 32 には、嵌合部 14 よりも上方に突出するガイド突起 38 が突設されていることから、第 2 部分枠体 20 の上方開口部からコネクタハウジング 52 を挿し入れる際に、コネクタハウジング 52 のブラケット装着部 68 の後方側の側面を、第 2 部分枠体 20 のガイド突起 38 の前面に当接させた状態で下方に押し込むことにより、ブラケット装着部 68 と嵌合部 14 の位置合わせを確実に行うことができると共に、ブラケット装着部 68 への嵌合部 14 の嵌合をスムーズに行うことができるようになっている。さらに、ガイド突起 38 は、ホルダ本体 12 の第 2 部分枠体 20 の底壁 32 と一方の側壁 34a の両方に連結されていることから、ホルダ本体 12 を第 1 部分枠体 18 と第 2 部分枠体 20 に分割したことによる剛性低減の問題が有利に解消されており、第 2 部分枠体 20 やホルダ本体 12 全体の剛性や形状安定性がガイド突起 38 を利用することによって実現されている。

【0039】

加えて、コネクタ 50 の電線延出方向の両側において、ホルダ本体 12 に設けられた当接部がコネクタ 50 に当接することにより、コネクタ 50 の電線延出方向での抜け出しが阻止されるようになっている。これにより、コネクタ 50 をコネクタホルダ 10 に対して安定して保持することができるようになっていると共に、コネクタ 50 のブラケット装着部 68 とコネクタホルダ 10 の嵌合部 14 に対して電線に加えられた力が及ぶことが阻止されて、コネクタホルダ 10 のコネクタ 50 に対する固定機能が有利に保持されるようになっている。

【0040】

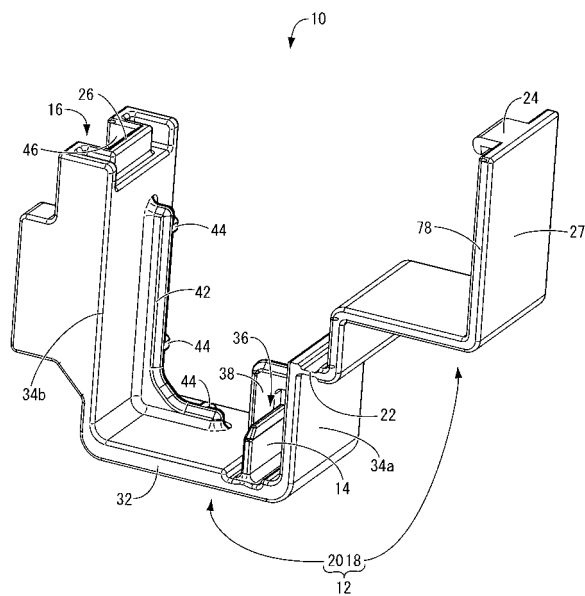
以上、本発明の実施形態について説明してきたが、かかる実施形態における具体的な記載によって、本発明は、何限定されるものでない。例えば、上記実施形態では、コネクタホルダ 10 に設けられた代替ブラケット装着部 16 は、コネクタ 50 に設けられたブラケット装着部 68 とはコネクタハウジング 52 に対する配設位置が異なっていたが、これ以外に嵌合構造（ランス構造とクリップ構造等）や嵌合方向等が異なってもよい。また、コネクタホルダ 10 は、上記実施形態のように第 1 部分枠体 18 と第 2 部分枠体 20 から構成されておらず、固定された一体成形品として構成されていてもよい。さらに、コネクタホルダ 10 には必ずしも圧接リブ 28、42 や当接部は必要ではない。

【符号の説明】

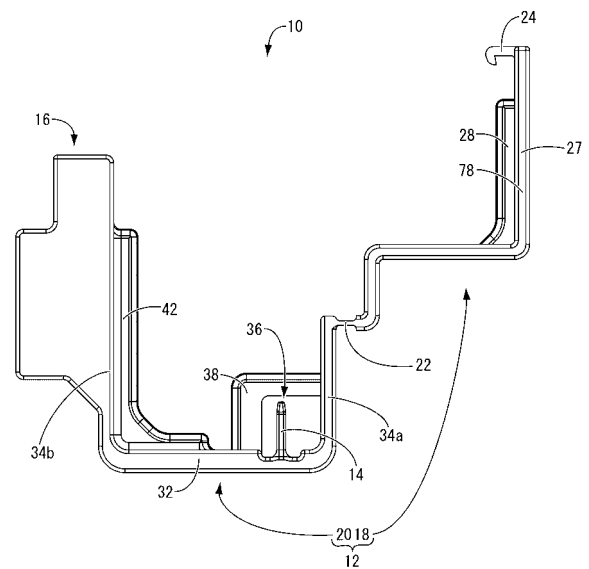
【0041】

10：コネクタホルダ、12：ホルダ本体、14：嵌合部、16：代替ブラケット装着部、18：第1部分枠体、20：第2部分枠体、22：ヒンジ部、24：ロック部、26：被ロック部、28：第1圧接リブ（当接部）、32：底壁、34a：側壁、34b：側壁、36：装着部収容領域、38：ガイド突起（当接部）、42：第2圧接リブ（当接部）、50：コネクタ、52：コネクタハウジング、64a：第1側面、64b：第2側面、68：ブラケット装着部、78：前端部（当接部）

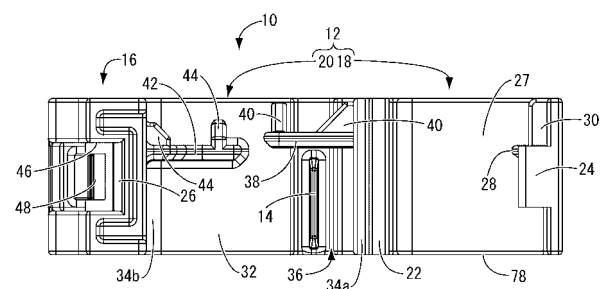
【図1】



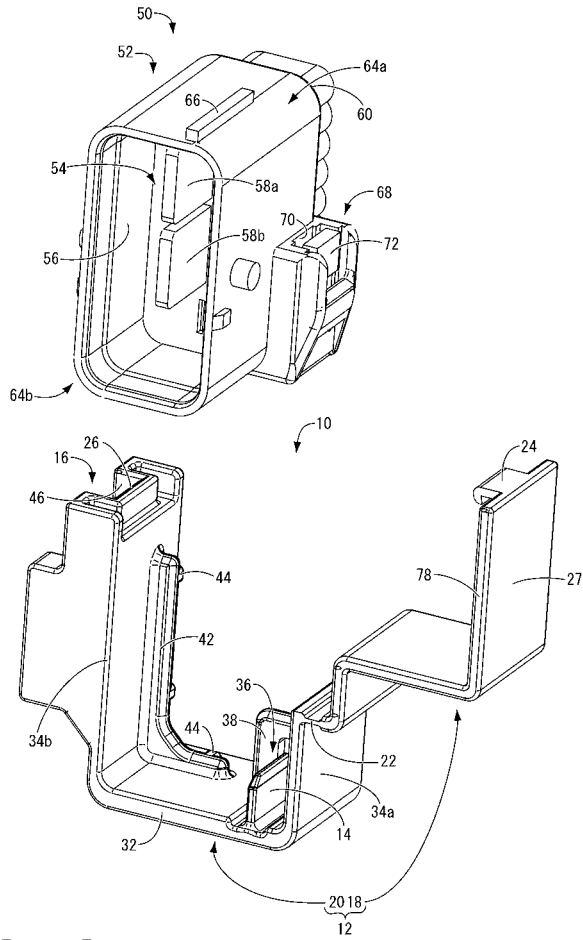
【図2】



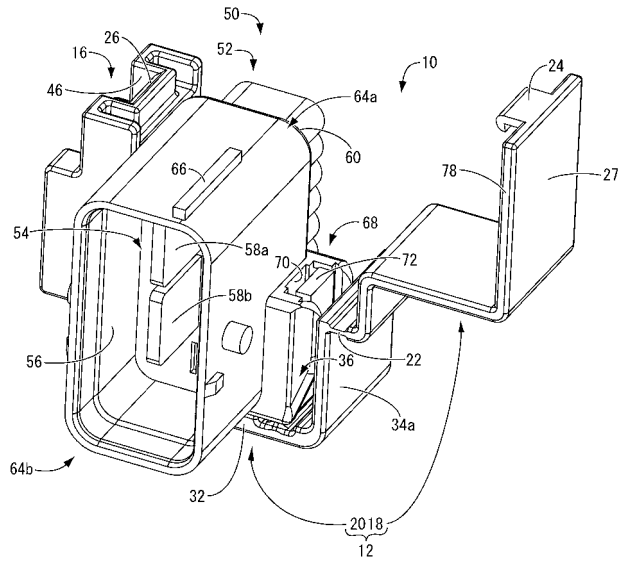
【図3】



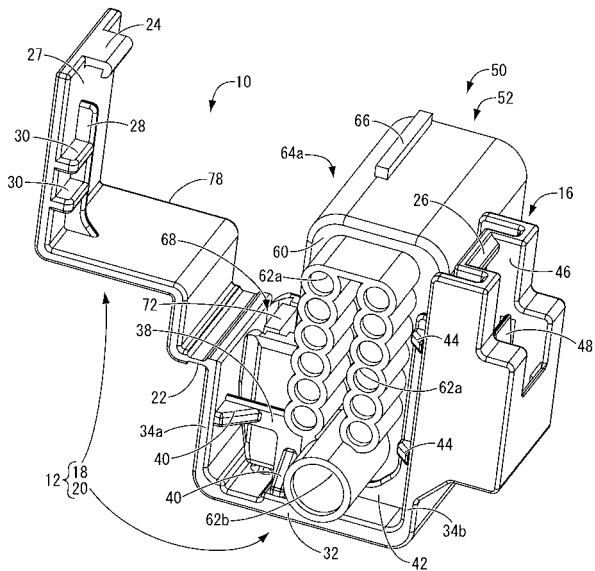
【図 4】



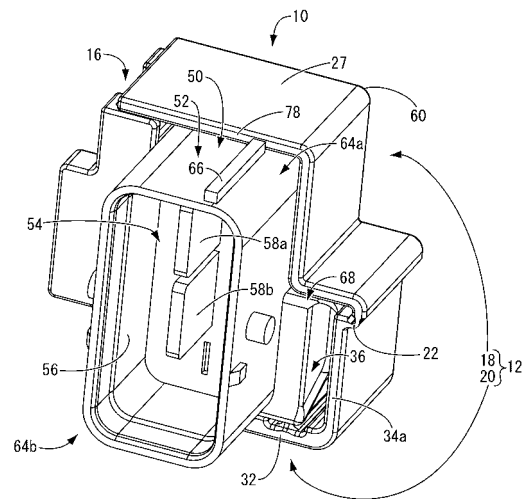
【図 5】



【図 6】



【図 7】



【図 8】

